

# Establishing a New Global Standard from Asia

## 1. 国際大学の理念と現状

### 建学の精神

高度に専門的且つ学際的学識を具備し、それを国際場裡で実践活用し得る人材の育成

すべて英語で行う授業

常時35カ国以上の留学生

114カ国約3,500人の修了生ネットワーク

国際色豊かな教授陣

日本人と世界の留学生が生活を共にする全寮制

**国際関係学研究所**

114カ国4大学(国際大学、武大、一橋大、慶応義塾大学)のすべての1階級学生に對して来日直後の夏学期中英語研修を実施

**国際経営学研究所**

国際ランキング(2013年) 英米Economic誌 世界7位、アジア6位 日本から唯一のランクイン

**経済界との強い連携**

グローバル人材のオーダーメイド育成研修  
各留學生をインターンシップで引き受け

多摩女子大学、JICA-JDS、国際通貨基金(IMF)、アジア開発銀行(ADB)、世界銀行(WB)

## 2. 工程表

	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	R33	R34	R35
	ステップ1 アジア基金強化・アフリカ進出準備		ステップ2 アフリカ展開・高度構築			ステップ3 世界進出への高度構築				
国際関係学	(1) アジアを中心としたダブル・ディグリー制度	検討・準備期間	既存のものに加え、コロンボ大学、ヤンゴン経済大学のダブル・ディグリープログラムを実施							
	(2) 新たな海外拠点を設立	検討・準備期間	パンフレットに集約している日本企業への就職研修や派遣プログラムを推進							
	(3) アフリカに特化した国際関係学	検討・準備期間	海外拠点における「海外インターンシップ科目」及び「海外ボランティア科目」を創設							
	(4) 言語教育研究センターを中心とした日本語教育	検討・準備期間	アフリカのトップ大学5校と協定を締結	アフリカ現地での留學生研修を年間2回実施	アフリカの現地大学に對して専攻員による短期派遣プログラムを実施					
国際経営学	(5) 国際協力人育成プログラム	検討・準備期間	「国際協力人育成プログラム(インターンシップ・スクール)」構築のため、メンバー等により海外拠点を設置し、アジア圏での現地実習を実施するプログラムを開設							
	(6) 日本人学生向け海外留学支援体制の確立	検討・準備期間	リスマネジメント講座開設、留学支援制度導入 海外大学向け修士後援講座実施	留学アドバイザー増員						
	(7) 修士課程(国際)設置	申請	投資							
グローバル人材育成	(8) ナンブリング	検討・準備期間	教務システム改修	各研究科にて実施し導入						
	(9) シラバスのフォーマット統一	検討・準備期間	検討・準備期間	シラバスのフォーマット統一及びオンライン化の実施						
グローバル人材育成	(10) 国際研修	スーパーグローバル大学推進本部 スーパーグローバル大学推進委員会	外国人サポートセンター(仮称)設置							
	(11) ガバナンス	検討・準備期間	インターナショナル・アクトイザリー(仮称)設置							

## 3. 構想実現のための推進体制

### <マネジメント体制>

学長

スーパーグローバル大学推進委員会 (新設)

理事

スーパーグローバル大学評議員会

### <推進体制・事務組織図>

連携・協力

スーパーグローバル大学推進本部 (新設)

事務局

国際関係学研究所

言語教育研究センター

グローバル・コミュニケーションセンター

国際経営学研究所

松下図書・情報センター

研究所

## 4. 実績及び目標設定 国際化関連

既に高い水準のもの	実績及び目標設定	平成25年度
多様性	教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合	87.5%
	職員に占める女性の比率	84.1%
	全学生に占める外国人留學生の割合	18.1%
語学力関係	外国語による授業科目数・割合	100%
	外国語のみで卒業できるコースの数等	100%
	学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組	65.3%
教務システムの国際通用性	ナンブリング実施状況・割合	100%
	シラバスの英語化の状況・割合	91.6%
大学の国際開放度	奨学金支給の入学許可時の伝達	100%
	混住型学生宿舎の有無	82.6%

今後の取組	実績及び目標設定	平成25年度	平成26年度
多様性	(1) 職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合	5.1%	20.0%
	(2) 教員に占める女性の比率	10.4%	25.9%
	(3) 日本人学生に占める留学経験者の割合	18.8%	40.6%
流動性	(4) 大学間協定に基づく交流数	3.9%	8.1%
	派遣日本人学生数	6.0%	10.1%
	受入外国人留學生数		

## 4. 実績及び目標設定 ガバナンス改革関連 教育の改革的取組関連 その他

2. ガバナンス改革関連	平成25年度	平成35年度	実施済
年俸制の導入	教員 91.7%	100%	実施済
	職員 25.6%	55.6%	
テニュアトラック制の導入	75.0%	100%	実施済
事務職員の高度化への取組(外国語基準)	82.1%	100%	

3. 教育の改革的取組関連	平成25年度	平成35年度	実施済
学生の主体的参加と大学運営への反映への促進(授業評価)	95.0%	100%	実施済
TOEFL等外部試験の入試への活用	100%	100%	

4. その他(教育情報の徹底した公表)

すでに実施しており、特に英語での情報は充実している  
→ 今後はより徹底した情報公開、寄付者への情報可視化を行う

実施済

## 5. 大学独自の成果目標と達成目標

① (定性的) 即戦力となるグローバル・リーダーを輩出する (定量的)

アジアへの日本人学生送り出し	平成25年度(年間)	平成26年度(年間)	平成31年度(年間)	平成35年度(年間)
インターンシップ参加者数	0人	28人	28人	28人
ボランティア参加者数	0人	15人	15人	15人
ダブル・ディグリープログラム履修者数	0人	6人	10人	12人

② (定性的) アフリカ諸国での人材ネットワークを構築する (定量的)

アフリカでの基礎作り	平成25年度(年間)	平成26年度(年間)	平成31年度(年間)	平成35年度(年間)
アフリカ協定校数	0校	3校	5校	5校
アフリカにおける大学説明会参加者数	0人	150人	250人	400人
アフリカからの留學生数	9人	15人	25人	40人

③ (定性的) 日本企業の海外進出を支援する (定量的)

教育的側面からの日本企業支援	平成25年度(年間)	平成26年度(年間)	平成31年度(年間)	平成35年度(年間)
ビジネス日本語受講者数	0人	100人	300人	500人
全受講者に占める修了者数	0%	50.0%	60.0%	70.0%
修了者が現地日本企業へ就職した数	3人	20人	20人	25人

## 6. 国際大学の実績と特性

国際的な環境

全寮制

国際色豊かな高い人材

国際大学 修了生ネットワーク 114カ国 3,500人

教員と修了生との共同執筆

経済界による強力な支援

国際色豊かな高い人材

教員の質と採用の透明性

経済界との協力関係

## 7. 本構想における特徴ある取組

本構想における取組

① ダブル・ディグリープログラムの拡充  
・スリランカ・コロンボ大学(H28年)  
・モンゴリアン・ヤンゴン経済大学(H28年)  
② 海外拠点の開設  
・スリランカ(H28年)  
・マンマ(2030年)  
・ガーナ(H32年)  
③ 海外インターンシップ科目、海外ボランティア科目を新設(H28年)

① ABE(インシヤブ)による学生受入(H26年)  
② ガーナを中心としたアフリカでの修了生ネットワークの構築(H28年)  
③ アフリカのトップ大学との留学協定締結(H31年)  
④ アフリカでの大学説明会開催(H31年)  
⑤ アフリカの協定校での本学教員による短期プログラムの実施(H33年)

① 大学間連携共同教育推進事業導入(H24年)  
② 国際関係学研究所、博士後期課程設置(H27年)  
③ 国際協力人材プロフェッショナルスクール構想(H29年以降)

① 研究科横断型の言語教育センターを新設(H26年)  
② e-learning/ブレンドド学習の導入(H27年)  
③ 海外拠点でのビジネス日本語教育の提供(H28年)